

あ

の日、東日本大震災は
そこに暮らす人たちから

大切な財産と、家族や友人の命を
奪い去りました。

それは、被災地の人たちにとって、
忘れてしまいたい『過去』の傷跡
なのかもしれません。

87パーセント。

：今後30年以内に

東海地震が発生する確率です。

死者111人、重傷者276人。

：第3次地震被害想定における

伊豆の国市の想定被害者数です。

これが、私たちに突きつけられた『未来』。

Proud!
Japan

東海地震に脅える私たちのため、
自らの傷が痛むことを厭わず、
被災地・多賀城市がくれたメッセージ。
『今』私たちは、
被災地からのメッセージを受け止め、
『未来』を切り開かなくてはなりません。

特集 被災地からのメッセージ

あの日に備え 何をすべきだったか



写真：宮城県多賀城市の被災状況

- ①津波による被害が大きかった国道45号(3月13日撮影)
- ②津波により浸水した桜木地区(3月12日撮影)
- ③津波で流され積み重なった自動車(3月13日撮影)
- ④地震により崩壊した砂押川堤防(3月12日撮影)
- ⑤地震から2日後の避難所(3月13日撮影)
- ⑥JX日鉱日石エネルギー仙台製油所の火災(3月11日撮影)



宮城県多賀城市の東日本大震災被害状況

津波の高さ	約2m～4m(仙台港で約7m)
浸水面積	約662ha(市面積の約34%)
災害ガレキ	約290,000㎡
被災車両移動数	5,077台
家屋解体受付数	1,376件
避難所受入人数	31カ所10,274人
(平成23年3月15日時点)	

損害額 54億9,400万円(会社・事業所含まず)

多賀城市内での死者数 住宅被害



*宮城県多賀城市は『全国市町村あやめサミット連絡協議会』に加盟し、当市と災害時の相互応援協定を締結している自治体です。

あの日に備え
何をすべきだったか



ナイフ・
缶切り



クラッカー



飲料水



マッチ・
ライター



ろうソク



乾電池



ラジオ



懐中電灯



非常持ち出し袋
の中身(参考例)

市内の避難所(21カ所)

地図	避難所名	所在地
伊豆長岡地区	① アクシスカつらぎ	古奈 255
	② 長岡中学校	長岡 1407-5
	③ 長岡南小学校	長岡 1294-1
	④ 長岡北小学校	南江間 1200
	⑤ 江間防災センター	南江間 1212-1
葦山地区	⑥ 富士美幼稚園	原木 1343
	⑦ 葦山小学校	四日町 350-1
	⑧ 県立伊豆中央高等学校	寺家 970-1
	⑨ 県立東部特別支援学校	寺家 235-1
	⑩ 葦山南小学校	中 817-1
	⑪ 県立葦山高等学校	葦山葦山 229
	⑫ 葦山中学校	葦山葦山 393
	⑬ 葦山体育館	葦山葦山 392-1
大仁地区	⑭ 県立大仁高等学校跡地	大仁 334
	⑮ 中島防災センター	中島 257-3
	⑯ 大仁中学校	三福 1276-20
	⑰ 大仁小学校	三福 325-1
	⑱ ひまわり保育園	三福 934-1
	⑲ 御門防災センター	御門 32-1
	⑳ 大仁北小学校	守木 312-1
	㉑ 大仁東小学校跡地	下畑 1930

避難所の確認

市内には、地域防災計画で定められた21カ所の避難所があります(左表)。自宅や職場から一番近い避難所を事前にチェックしておきましょう。避難所の位置は、以前各家庭にお配りした『伊豆の国市防災マップ』(市ホームページでも公開中)で確認できます。



地震直後の避難所(多賀城市)



伊豆の国市防災マップ



東海地震への備えを実践する
小嶋正蔵さんと
孫の真希ちゃん(中)

Message 1
自分でできる防災



携帯ラジオの備え

停電時の情報源として携帯ラジオを備えましょう。最近はテレビを受信できる携帯電話などもありますが、電池消費が少なく、コミュニティFMなど地域に密着した情報が得られる点では、やはりラジオがベストです。

非常持ち出し袋の中身

非常持ち出し袋は、家族全員が分かりやすい場所に置きましょう。中身は、災害備蓄品とは違い、避難するとき持ち出す『必要最低限のもの』。4~11ページ上段のイラストを参考に備えてください。重さの目安は成人男性で15kg、成人女性で10kg以内が適当です。

実践 小嶋正蔵さん(中)
地震で家が壊れた場合も考え、備蓄品の保管場所(家の外(物置や車庫など))が適しています。県や市は、備蓄食料は3日分と指導していますが、わが家では10日分を備え、年に一回は入れ替えをしています。行政の支援を過大に期待せず、生活必需品は各家庭の備えで用が足りるようになってはなりません。



地震保険の加入

火災保険では補償されない、地震や津波などによる損害を補償する保険です。東日本大震災では、地震保険(特に家具・電気製品などの家財)に入っていたおかげで補償を受けられた人がいました。一方で、保険会社との間に補償金額を巡るトラブルが発生する例もあるようです。契約前に補償内容をしっかり確認しましょう。地震保険に関する詳細は、各保険会社に直接お問い合わせください。



3日分の備蓄食料(写真は成人男性1人分の例)

家族の人数分をまとめて保存するのがおすすめです。食品は賞味期限切れに注意して、定期的な入れ替えをしましょう。



飲料水9ℓ
(1日あたり3ℓ)



米3合
(1日あたり1合)



カレーなどのレトルト食品



ラーメン・そば・パスタ
などの乾燥麺類



クラッカー・乾パン類



各種缶詰
(煮魚・フルーツなど)



ワイン・梅酒・焼酎など
(*寒い時に体を温めたり、
疲れを癒すため)



調理器具・食器類



カセットコンロ
(予備のカセットも)

*備蓄食料はあくまで参考例です。これらに限らず各個人・家庭に適した備蓄をしてください。

あの日に備え
何をすべきだったか



第5回安全で安心なまちづくり市民大会 パネルディスカッション 東日本大震災の教訓から学び、 今あらためて東海地震対策を考える

平成 23 年 10 月 8 日
アクシスかつらぎ



岩田孝仁さん(以下岩田) コーディネーターを務める岩田です。東日本大震災では、伊豆の国市からさまざまな形で被災地に行った人たちがいいます。また、被災地の支援や、自主防災会の活動などを通じて、それぞれが得た震災への思い・教訓から、東海地震に向けて何をしていくべきかを議論します。

東日本大震災の直後

岩田 震災直後、被災地に派遣され、救助・保健活動に従事した2人の活動や活動を通じて感じたことを教えてください。

植田敏嗣さん(以下植田) 私が派遣されたのは福島県。外は吹雪で、今まで体験したことのない寒さでした。活動地の相馬市を見たときは唖然としました。街があるはずのところはガレキしかなく、津波の恐ろしさを実感しました。地元の人たちに「家族を助けてください

い」と手を合わせて拜まれ、私も必死に救出活動をしました。静岡県の救助隊が発見したのは3人。本当に残念ながら、全員亡くなっていました。私たちの胸に「生存している状態で助けたかった」という無念が残りました。

白井みち代保健師(以下白井) 私は仙台市若林区で、被災した人たちの健康支援をしました。一日2回の巡回健康相談を行い、感染症の予防や、体調の悪い人の心身のケアに努めました。避難所にいる人たちのほとんどが家族を亡くしていました。皆、ひたむきに生きていました。中にはねぎらいの言葉をかけてくれる人もいて、私の方が勇気をもらいました。

その後の取り組み

岩田 震災の後に、原木区で始めた新たな取り組みについて教えてください。

た際、「多賀城市の皆さんにぜひ伊豆長岡温泉で心を癒してほしい」と伝え、『多賀城市被災者受入支援事業』を展開しました。市内旅館の協力のもと、5月〜9月の間に、全9回計254人の多賀城市民に滞在していただき、市内の団体やボランティアと交流し、堅い『絆』を結んでいただきました。

こういった形で多賀城市を支援できて良かったと思いますし、多くの市職員が多賀城市を訪れ、被災地を肌で感じられたこともあり、たいことでした。この経験は、必ず東海地震で役に立ちます。
土屋龍太郎さん(以下土屋) 被災地のために私たち建設業者ができることは、災害復旧工事のお手伝いです。現地の建設業者の手が回らず、壊れたまま放置されていた個人住宅のブロック塀の撤去を手伝いました。復旧活動に参加した会員は、皆、胸に灯をともして帰ってきたようです。なぜなら私たちは、普段は騒音や通行規制等で苦情を言われながら市民生活の向上や安全確保をしているのに、被災地では皆さんから感謝されて「自分たちは人の役に立っている」と実感できたからです。被災地での

彼らの経験は、市の防災力を大きく向上させたと思っています。
澁谷大司さん(以下澁谷) 今回の震災で、行政にとって一番大切な感じたのは、『絆』と『チャンネル』(交友関係)の多さです。震災当時、多賀城市では一万人の避難者を抱えているのに、災害支援協定を結ぶ大手スーパーも被災し食料を調達できない状況でした。そんな中、伊豆の国市など全国から送っていただいた食料でなんとか食いつなぐことができました。多賀城市が全国に持っていた多くの『絆』と『チャンネル』のおかげです。さらに建設業協会の復旧活動や東

静電気(株)の洗濯サービス、伊豆長岡温泉での『多賀城市被災者受入支援事業』などは、被災者の心の支援になりました。本当に感謝しています。

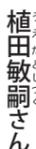
東海地震の対策

岩田 今後、それぞれの立場で、どのように東海地震対策を進めることが必要だと思いますか？
土屋 東海地震が来て『伊豆地方、大打撃』とマスコミに報道されれば、観光業は窮地に立たされま

パネリスト



田方消防本部
田方中消防署
当直司令



植田敏嗣さん



伊豆の国市
健康づくり課
保健師
白井みち代

震災発生から約1カ月後の宮城県仙台市に派遣され、災害現場の保健活動に従事。被災者の心のケアの重要性を再認識する。大震災発生時は自動車を運転中で、地震とは気付かず「自動車が故障したのでは」と思った。



原木区自主防災会
会長
山下正浩さん

自主防災を積極的に進める原木区の区長。防災講演会実施、防災訓練に『防災クロスロードゲーム』導入など、区民の防災意識向上に努める。『自分の身は自分で守る』が信条。大震災発生時は畑で農作業中で、地震と気付かず「めまいかな」と思った。



伊豆の国市建設業
協会 会長
土屋龍太郎さん

土屋建設(株)代表取締役。平成19年から市建設業協会会長を務める。同協会として宮城県多賀城市に現場監督と重機オペレーター計50人を派遣し、被災地の復興を支援。大震災発生時は、すぐに事務所に戻って市内の被害状況を確認した。



前宮城県多賀城市
総務部長
澁谷大司さん

昭和48年に多賀城市役所入庁。退職直前に発生した東日本大震災により多賀城市災害対策本部付けとなり、震災後の復旧・復興活動に携わる。大震災発生時は市庁舎で会議中で、かつてない大きな揺れに「建物が倒壊するのは」と危機を感じた。



切り開きましょう。
希望ある『未来』を
私たちが
彼らに負けないよう、
復興を遂げつつある
今、たくましく

明日、突然くるかもしれない
東海地震。
この地で暮らす以上、
それは避けられない『未来』
なのかもしれません。
私たちは、
被災地からのメッセージを
無駄にはいきけません。

多賀城市でも、毎年6月末ごろ『あやめまつり』
が開催されます。国の特別史跡『多賀城跡』の
一角、約20,000㎡のあやめ園に、250種200
万本のあやめ、花菖蒲が咲き誇るイベントで
す。今年は震災により中止されましたが、来
年はぜひ訪れてみてください。

12/4 (日) 地域防災訓練

3.11の教訓

～防災活動の原点『自助・共助』に立ち戻り総点検！～

*訓練の実施時間や会場は、各地区にご確認ください。
ご不明な場合は地域安全課までお問い合わせください。

問合せ 地域安全課 ☎ 055-948-1412

参考：第5回伊豆の国市安全で安心なまちづくり市民大会 濫谷大司氏講演
『東日本大震災を経験して伝えたいこと～あの日(3.11)に備え、我々は何をすべきだったのか』
同大会 岩田孝仁氏講演『減災社会を築く～東海地震への備え』
写真提供：宮城県多賀城市総務部地域コミュニティ課



植田 消防本部と消防団は、今以
上に連携を深めるべきです。女性
消防隊にも、救急訓練の成果を広
めてもらいた
いです。すで
に国、県、市
は、防災危機
感を持ってい
ます。これか
ら一番大切な
のは、各家庭、

個人の防災危機感です。東日本大
震災でも「地震が起きたら外に出
る」というおぼあちゃんがかつ
た例があります。各家庭、個人が
普段から防災危機感を持ち、地震
が起きたときは、ぜひ『冷静な判断』
をしてください。
白井 亡くなった皆さんが命を
もって、今、何をすべきか教えて
くれました。『被災者に必要な健
康支援の指針』を緊急に作り、市
民を巻き込んで指針に基づいた訓
練を実施する必要があります。し
かし、あくまで想定範囲内の指
針や訓練ですから、想定を超える
災害が起きたとき、柔軟に対応で
きるよう心がけたいです。
市長 今までの防災対策は水害
や急傾斜地を中心に行ってきたの
で、先日の台風15号でも被害を最
小限に食い止めることができました。
また多賀城市同様、伊豆
の国市でも、平成24年度で幼稚
園・保育園、小・中学校の耐震化
がすべて完了します。これからは
『T O U K A I - O 』を推進し、木
造住宅の耐震化に力を入れたいと
思います。さらに同報無線の個別

受信機配布やコミュニティFMの
開局に向けた取り組みも進めま
す。また防災対策と並行して、避
難所についても乳幼児や投棄者へ
の配慮など、きめ細やかな対策を
講じたいと思います。実は、東日
本大震災は、7年も前に発生確率
90%と予想されていた(※)。
現在、東海地震の発生確率が87%
と予想されている私たちも、もう
一度改めて情報に対する正しい認
識を持つべきです。東海地震の被
害を最小限にとどめるため、今後
も防災対策を進め、全国の都市と
連携をしていきたいと思えます。
濫谷 多賀城市がここまで復興で
きたのは、皆さんのおかげです。
万が一、伊豆の国市が災害にあつ
たら、私たちはいち早く駆けつけ
ます。多賀城市、宮城県、東北は、
今復興に向かっています。来年に
は、復興した姿を見ていただきた
いと思えますので、ぜひ一度皆さ
んでお越しください。
岩田 ありがとうございます。
以上でパネルディスカッションを
終了します。



静岡県危機管理部
危機報道監
岩田孝仁さん

文中(※)・・・東日本大震災は、
平成16年6月(約7年前)の新聞
記事等既に、『三陸沖地震はマ
グニチュード8.0、発生確率
90%』と報じられていました。



伊豆の国市
市長
望月良和

平成3年より旧・大仁町長、
平成17年より伊豆の国市長を歴
任。豊富な首長経験の中から『防
災』の重要性を強く認識し、防
災ハード対策に力を入れること
もに、『安全で安心なまちづくり』
を進める。大震災発生時は、市
役所で接客中だったが、長く激
しい揺れに一時、「東海地震が来
たのでは」と思った。

コーディネーター

パネリスト